

## 【4歳児 7月の事例】

### あきらめずにやってみようという気持ちをもつ

「セミ、もう1回捕まえたい」

① 登園するとすぐ、A児はタモを持って園庭のセミが鳴いている木を見上げた。一生懸命探しているとB児・C児・D児もタモを持って集まってきた。A児が、指を指しながら「あ、あそこ」と言ってもB児・C児・D児は「どこ、どこ」と言ってもすぐに見つけられず、B児が「ねえ、どこにいるの」と強い口調で言った。「ここだよ」と、A児がタモを勢いよく突き上げると、セミが飛び立った。

② 4人は、セミを目で追いながら「あああっ」と、長いため息をついた。C児が「まだ、鳴いてるよ」と言うと、A児がまたセミを見つけた。A児は「あそこ、すごく高い所。そうだ。台を持ってこよう」と言って、B児と一緒に走り出した。2人で台を引きずって持って来ると、A児は台の上に乗って、さっきより高い位置でセミを探した。A児が「どこだったっけ」と言うと、C児は「あそこにいるよ、僕ずっと見張ってたから」と言って、A児が乗った不安定な台を押さえて支えた。

保育者が「A君、これで落ちないね」と声を掛けるとC児はうなずいてさらにしっかりと支えようとした。

③ 台の上のA児はタモを伸ばし捕まえようとするが、また逃げられた。みんなは、がっかりした。D児は「セミが気がついて逃げちゃった。」「A君、タモをびゅんってしてたよ、惜しかったよ」と言うと、D児は、A児と同じように素早くタモを振って見せた。それを見てA児が「もう1回捕まえたい」と言い、4人はもう一度セミ探しを始めた。



幼児の姿から『学びに向かう力』を読み取ると…

#### 【興味・関心、好奇心】

①園庭でセミの声を聞いて、見つけて捕まえたいという意欲をもった。

#### 【目的の共有、集中力、協力】

②セミを捕まえたいという目的を共有して、台を運んだり安定するように押さえたりした。

#### 【粘り強さ】

③残念な気持ちになった4人が、もう一度やってみようという目的をもってセミを探し始めた。

### 学びに向かう力

自分の気持ちを調整する力

粘り強く  
取り組んだり  
挑戦したりする力

仲間と協調する力

## 環境の構成のポイント

「一人一人が身近な自然と触れ合うことができるようにしましょう」

- 4歳児の虫捕りは、タモが長すぎると振り回した時に危険な場合があるので、少し短めのものを用意します。一人1セットのタモと虫かごを用意しておき、4歳児の特徴である「友だちと一緒にうれしい」という気持ちが満喫できるようにして、遊び（虫捕り）に集中できるようにしましょう。
- 園庭には季節に応じて草花や木を植えて、自然環境を豊かにするように心掛けましょう。チョウやバッタ、セミなどの虫が寄ってくるように、花や木の種類にも配慮し、餌になる雑草は抜かないようにします。また、突然、カブトムシ、ザリガニやオタマジャクシなどを持って来る幼児のために、学級用の飼育箱は多めに用意しておき、くみ置きにした水やエサ、昆虫マットなど、予想のできる用具や飼育グッズを季節に応じて用意しておくことも大切です。

## 保育者の関わりのポイント

「安全に配慮して、幼児同士の自発的な行動を見守りましょう」

- 友達と同じように遊びたい気持ちが読み取れた場合、幼児同士の会話で物事が進んでいくように傍らで見守りながら一緒に行動しましょう。
- 長い物の扱いには不慣れな幼児もいるので、安全に遊ぶことができるよう、できるだけ近くにおいて、扱い方を知らせましょう。
- 夢中になって遊ぶため、危険な虫かどうかの判断、帽子の着用、水分補給、休息など、安全や健康に対して、保育者が近くで見守りながら、気を付けていくことが必要です。



## 家庭での関わりのポイント

「幼児の学びの芽生えのチャンスをつぶさないようにしましょう」

- 4歳児は、興味をもつと集中して取り組もうとしたり、失敗しても再チャレンジしたりする姿が見られます。そして、保護者や保育者の言葉よりも友達の言葉に耳を傾けるようになり、時を忘れて没頭して遊びます。このような幼児の自発的な行動が学びの芽生えの基となるので保障していきましょう。
- 好奇心が旺盛になると、小動物や園庭の虫に興味をもつ幼児が出てきます。「虫はちょっと苦手」という方もいるでしょうが、「自分は苦手だから」と正直に伝えながら幼児が自分から求めようとしている姿は、学びの芽生えのチャンスとしてつぶさないように心掛けましょう。

学びに向かう力を育むための手立て